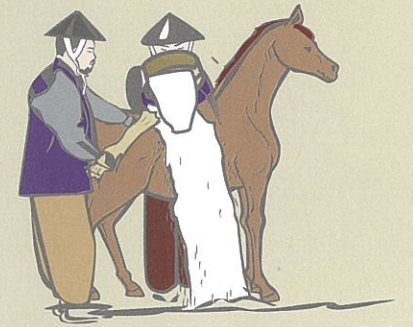


# 自然豊かな歴史

## 米山城の白米伝説

米山城には、有名な白米伝説が残る。武田軍は、米山城に立てこもる村上軍を包囲し、水の手を断つたが、山の上で白米を馬の背に流して、水は余るほどあるように見せた。これを遠目で見た武田軍は「馬を洗うほどまた水があるのか」とひるむ間に村上勢が一気に攻め降して戦いを勝利に導いたという。米山城跡からは、今でも黒炭化した米が掘り出されている。



武田方の横田備中守をはじめ、千余名が討死に。信玄自身も手傷を負い大敗した。これが『信玄の砥石崩れ』と後世まで語りつがれている砥石城の戦いです。



戸石(砥石)城の戦い 天文19年(1550)  
(上田市立博物館蔵)

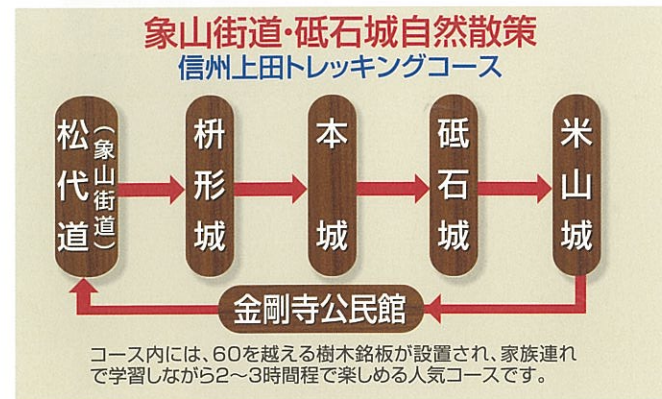
豊かな自然と情緒あふれる

# 米山城の里 金剛寺

## 歴史散策ガイドマップ



戦いに備える戦国時代の金剛寺  
北は東太郎山から連なる峻険な山々を背負い東には砥石・米山の両城。西は柏山城をはじめ大小の砦を配置し南を高土手で固めた。中央の谷には、屋敷を造り周りを土塁で囲んだ金剛寺集落は、戦いに備える村として越前(福井県)の一乗谷に比して優るとも劣らない。



## 米山城の里 金剛寺 歴史散策ガイドマップ

砥石米山城跡保存会

平成25年度 上田市わがまち魅力アップ応援事業

砥石米山城跡保存会

# の里 金剛寺

## 佐久間象山と松代道

この道は、松代道(約30km)の一部で、幕末期の先覚者佐久間象山18歳、文政11年(1828年)の時、岩門の大日堂、学者活文禅師に教えを請うため、松代から馬を駆つて越え金剛寺集落を経て通つたと伝承されている峠道です。



■砥石崩れ  
信濃に攻め入った武田信玄は天文19年(1550)村上義清の守る砥石城を大軍をもって総攻撃を開始。一ヶ月余に及んで攻めたが、要害堅固な山城で攻略できず退却する武田軍を義清は、二気に追撃戦を挑み、

村上義清

# 米山城の里 金剛寺 歴史散策ガイドマップ

金剛寺地域には古きよき伝統と多くの史跡があります。白米伝説で知られる米山城と戦国武将村上義清のゆかりの地です。また佐久間象山が寺子屋で学ぶため松代からここ金剛寺を経て岩門の大日堂まで馬でかよった松代道(象山街道)もあります。長い歴史の中で育まれた美しい自然環境が人々の心を豊かにしてくれます。このマップを片手にトレッキングコースをまわり壮大な歴史とロマンを感じながら周辺を散策してみましょう。



**1 洞源寺**  
南北朝時代の1332年海野氏22代兵庫頭幸則の開基と伝えられる。貞治2年(1363)と永和5年(1379)の銘が入った宝篋印塔の一部が二基現存する。



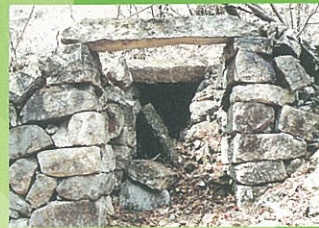
**2 義清水**  
金剛寺地区でかつて住民が利用していた井戸。義清水の名は、砥石・米山城を守った村上義清と関係があると語りつがれている。現在も形をとどめ、井戸端会議で親睦を深めた様子が目に浮かぶ。



**3 中世五輪塔群**  
乙山(地藏山)の東麓の道下の畑の土中に散在していたものが、昭和58年におよそ十基ほど発掘された。室町時代の中期以後、金剛寺地域に支配層として居住していた一族の基ではないかと考えられている。



**4 東條健代神社**  
東條健代神社本殿右の脇壁。鶴の彫刻が見られる。脇壁に彫刻を納めるよういなるのは当地では江戸中期以降とされる。



**5 風穴跡**  
創設は明治の初期。蚕種の孵化管理施設として金剛寺の養蚕の繁栄を支えた。



寒暖の差と高い栽培技術が品質の優れたりんごを育てる。今や「金剛寺りんご」として名高い特産品である。



金剛寺から米山城を望む

**6 米山城(初めは小宮山城という)**  
海野氏の支配下にあった小宮山氏が文明年間(1480年前後)に築いた山城。小宮山氏の居館は、東條健代神社の東方堀の内にあつたと言われる。その後、砥石城を築いた村上義清によって既にあった米山城も使われ砥石合戦の舞台ともなり、白米伝説を生んだ。



**7 村上義清公碑**  
砥石崩れによって武田軍を敗退させた村上氏であったが、翌年(1551年)真田幸隆によって砥石城は乗取られた。次の年には義清が拠城としていた葛尾城(坂城町)も武田方に陥ち、東信濃に威勢を誇った村上義清も上杉謙信を頼って越後に逃れた。この時から350余年後の明治42年米山城頂上に村上義清公の碑が建立された。碑文は、上杉謙信14代目伯耆上杉茂憲によるものである。



**8 庚申塔、二十三夜塔、道祖神**  
広道には右から、庚申塔、二十三夜塔、道祖神が祀られ、金剛寺集落の中心的な場所であった。



**9 長野県史跡・砥石城跡**  
武田信玄が敗退を強いられた「砥石崩れ」(1550年)で知られる。翌年武田軍下の真田幸隆が乗取り、武田氏滅亡後、真田昌幸が上田城を築くまで居城していたといわれる。上田城の本丸からは鬼門の北東方向に砥石城が眺望できる。砥石城は、上田城築城後も、上田盆地の北の守りとして機能していた。